

大学図書館が eBookに期待すること

東北大学附属図書館 工学分館
管理係長 米澤 誠
yonezawa@library.tohoku.ac.jp

1

1.1 ウェブ主流時代という認識

授業で目にする学生

図書館の活用法を知らない

検索エンジンばかり使う

推測できる原因は

図書館資料の有用性を知らない

ウェブ情報で十分と思ってる

裏付ける数値は

Perceptions of libraries and information resources :
a report of the OCLC membership, OCLC, 2005

<http://www.oclc.org/reports/2005perceptions.htm>

2

1.2 OCLC意識調査の概要

- 2005年7月に，豪・シンガポール・印・加・英・米で実施
- 回答者は3,348名で，14才～65才以上の英語使用者
- 設問数は83

3

1.3 OCLC報告書の構成

序論

第1部 図書館と情報資源 - 利用度・親近度・好感度

第2部 図書館を利用する - 来館利用とウェブ利用

第3部 図書館ブランド

第4部 回答中の図書館に対する助言

第5部 図書館 - “普遍的”ブランドか？

結論

付録

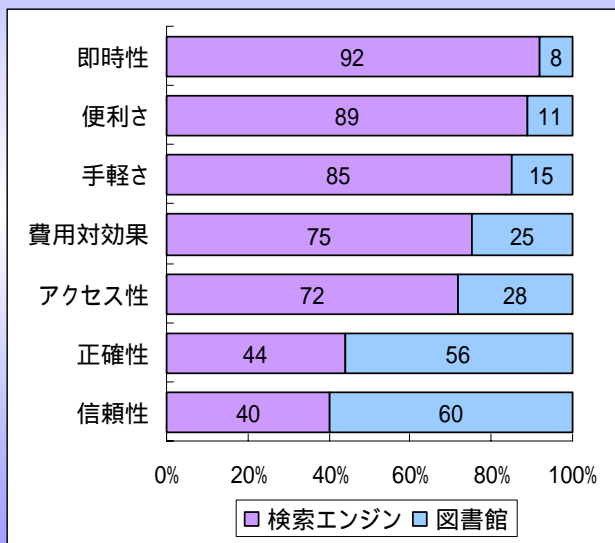
4

1.4 選択する情報源

考慮する 情報源	割合	最初に選択する 情報源	割合
検索エンジン	91%	検索エンジン	80%
図書館	55%	図書館	11%
オンライン図書館	42%	オンライン図書館	6%
書店	37%	書店	2%
オンライン書店	30%	オンライン書店	2%

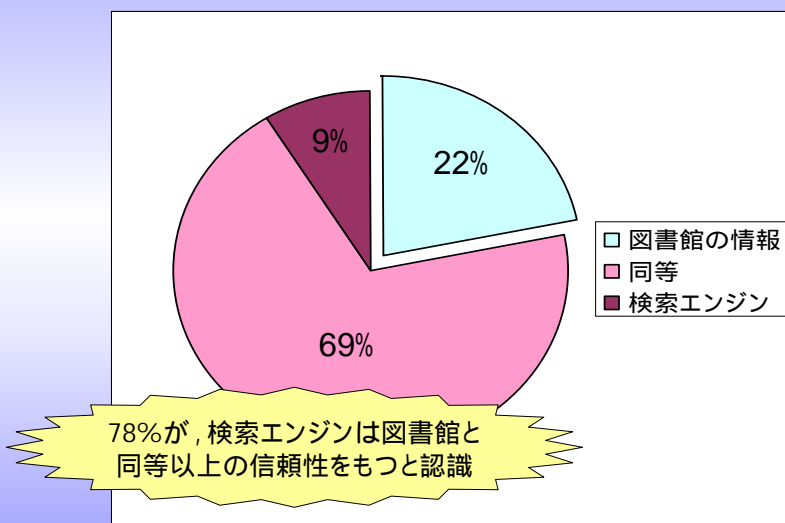
5

1.5 検索エンジンと図書館の優位性



6

1.6 情報としての信頼度



7

1.7 ウェブと図書館の利用頻度（日本）

利用頻度	検索エンジン	図書館	オンライン図書館
毎日	52.5%	6.1%	7.0%
週2～3回	34.4%	12.3%	9.0%
週1回	5.1%	23.4%	5.0%
月2～3回	4.0%	30.6%	12.0%
月1回	1.0%	10.2%	4.0%
年数回	1.0%	12.3%	8.0%
ほとんどなし	2.1%	5.1%	55.0%

筆者担当科目(eラーニング方式)でのアンケート調査による

8

2.1 ウェブ情報の位置づけ (1)

米沢, 2006「検索エンジンを正しく利用するための認識3原則」

エンジンで検索できないもの多し
ランキング信頼性とは別のもの
言葉かえ検索すれば結果別

問題点の指摘は
最小限にとどめる

「ウェブは玉石混淆」の
ひとことですまない状況

9

2.2 ウェブ情報の位置づけ (2)

米沢, 2006「検索エンジンを正しく利用するための行動5原則」

いらぬものドメイン名で取り除く
信頼性サイトの身元で確かめる
見つけた情報ほかでも確認を
何ごとか分からぬときはウェブ使う
タイトルでヒットなければウェブ使う

有用点を評価し
いかに利用するかを示す

10

2.3 ウェブ情報の問題点の切り分け

検索エンジン

検索できないもの多い
ランキングと信頼性別
言葉変えれば結果別
いらぬものは取り除く

検索過程と検索結果は
別に評価すべき

ウェブページ

信頼性を確かめる
他の情報源で確認を

11

2.4 ウェブページの問題例

江戸時代に和算は大いに発展した。
このきっかけとなったのが1641年，吉田
光由によって書かれた塵劫記である。

事実誤認

主に師弟関係で継承されてきたため，あ
まり一般には知られることはなかったが，
微分，積分の発見，整数論などの分野で
は，西洋での発見と同時期．．．

バランスの欠如

Wikipedia「和算」から

12

2.4 ウェブページの問題例

参考文献

責任表示 = 著作権の欠如

- ・『例題で知る日本の数学と算額』 深川 英俊著 森北出版株式会社
- ・『「数」の日本史』 伊達宗行著 日本経済新聞社
- ・『和算史年表』 佐藤健一・小寺裕著 東洋書店

学術性の不徹底

13

2.5 ウェブページの問題点

ウェブページ

- ・ 匿名的
- ・ 可变的
- ・ 無典拠的

無批判的, 非アカデミック



- ・ 記名的
- ・ 固定的
- ・ 有典拠的

批判的, アカデミック

14

2.6 ウェブページの切り分け

非アカデミックなウェブページ

- ・ 匿名的
- ・ 可变的
- ・ 無典拠的

アカデミックなウェブページ

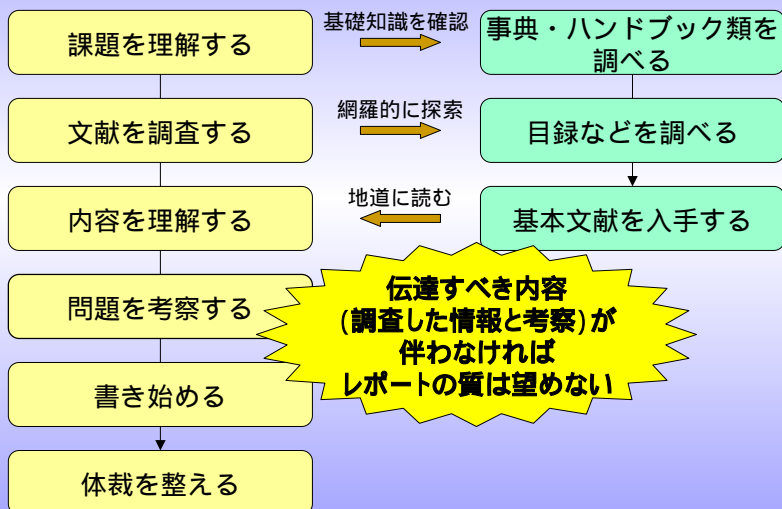
- ・ 記名的
- ・ 固定的
- ・ 有典拠的



図書館資料的なページ

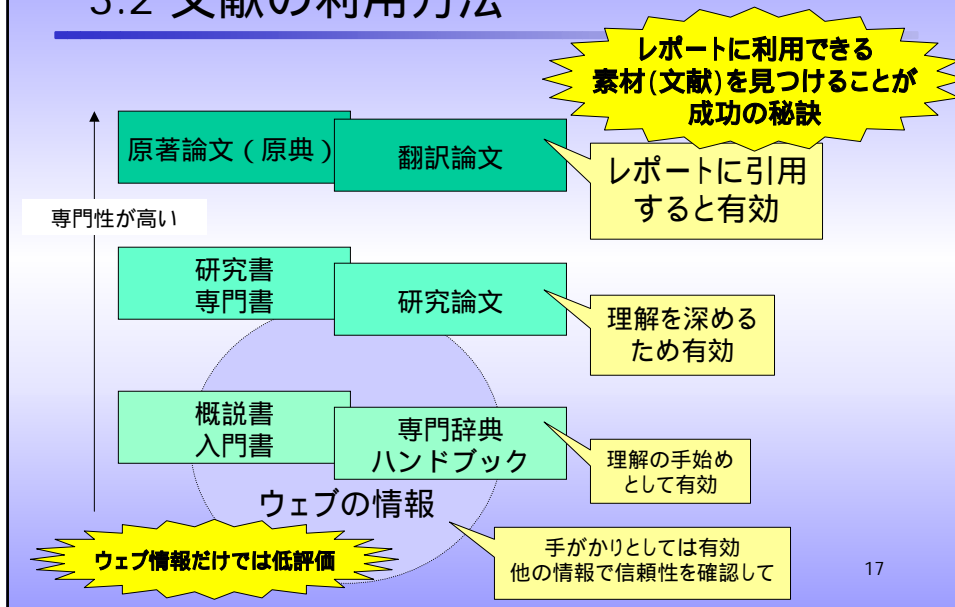
15

3.1 レポート作成の手順

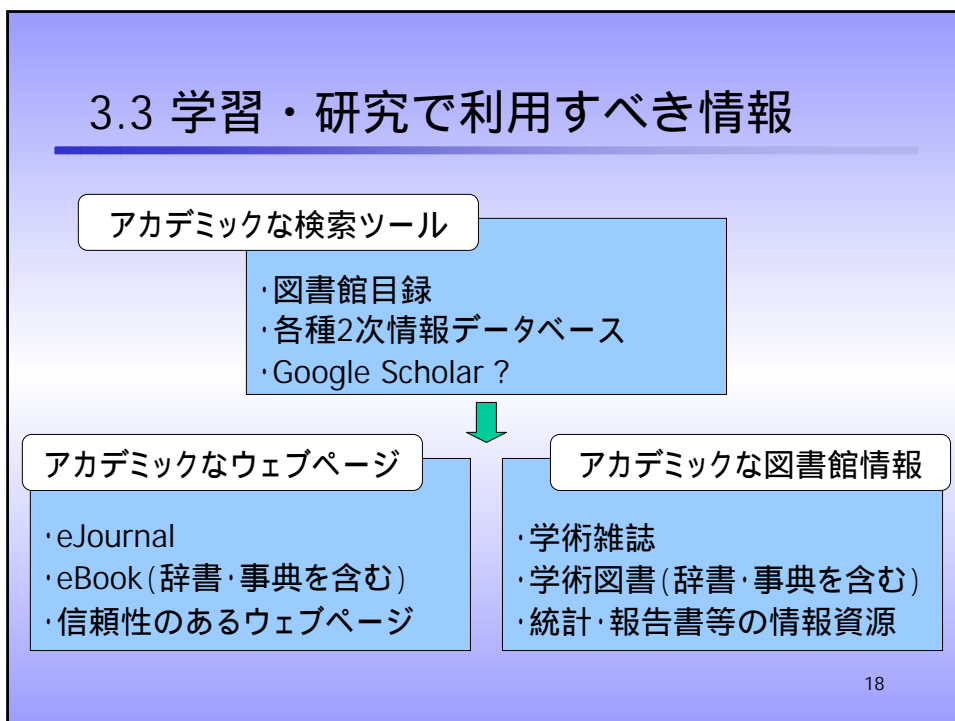


16

3.2 文献の利用方法



3.3 学習・研究で利用すべき情報



4.1 百科事典の復権

JapanKnowledge

日本大百科全書

和算

わさん

目次:

1. 算術と九九の由来
2. そらばんの算術
3. 算盤と和算
4. 和算の発展
5. 算盤の活用

和算とは、江戸時代、日本で独自に発展した数学。江戸時代初期からのわが国の数学をすべて和算という場合もあり、わが国独自の算術を総称した和算利(たかかず)以後の数学という場合もある。和算とは、洋算に対するものである。明治維新前後、西洋の数学が輸入されたとき、これを洋算とよび、これに対してわが国由来の数学を和算と称したもので、歴史的には正しい名称である。江戸時代には和算ということばはない。なお、明治時代の和算家は和算を「わさん」とよんでおり、「わさん」という呼び方はごく最近のことである。

歴史的にみると、わが国の数学は3回にわたって外国の影響を受けている。第1回は奈良時代の少し前、第2回は江戸時代の以前、室町末期で、いずれも中国から数学が輸入された。第3回は明治維新の少し前で、これは、西洋から数学が輸入された。3回とも、それらの数学の輸入が、それに続く時代の文化の発展に大きく寄与したという点では共通している。

算術と九九の由来

関連項目

1. 算術
2. 算盤
3. 算盤の活用
4. そらばん

関連サイト

1. 和算の歴史
2. History of Japanese Traditional Mathematics in Various Asia
3. 和算の発展
4. Japanese Math
5. 算盤と和算
6. 算盤の活用
7. 算盤の活用

バランスのとれた学術的記述

有識者の責任表示

適切な参考資料

19

「日本大百科全書」(JapanKnowledge)から

4.1 百科事典の復権

JapanKnowledge

日本大百科全書

和算

わさん

目次:

1. 算術と九九の由来
2. そらばんの算術
3. 算盤と和算
4. 和算の発展
5. 算盤の活用

和算とは、江戸時代、日本で独自に発展した数学。江戸時代初期からのわが国の数学をすべて和算という場合もあり、わが国独自の算術を総称した和算利(たかかず)以後の数学という場合もある。和算とは、洋算に対するものである。明治維新前後、西洋の数学が輸入されたとき、これを洋算とよび、これに対してわが国由来の数学を和算と称したもので、歴史的には正しい名称である。江戸時代には和算ということばはない。なお、明治時代の和算家は和算を「わさん」とよんでおり、「わさん」という呼び方はごく最近のことである。

歴史的にみると、わが国の数学は3回にわたって外国の影響を受けている。第1回は奈良時代の少し前、第2回は江戸時代の以前、室町末期で、いずれも中国から数学が輸入された。第3回は明治維新の少し前で、これは、西洋から数学が輸入された。3回とも、それらの数学の輸入が、それに続く時代の文化の発展に大きく寄与したという点では共通している。

算術と九九の由来

関連項目

1. 算術
2. 算盤
3. 算盤の活用
4. そらばん

関連サイト

1. 和算の歴史
2. History of Japanese Traditional Mathematics in Various Asia
3. 和算の発展
4. Japanese Math
5. 算盤と和算
6. 算盤の活用
7. 算盤の活用

アクセス性が格段に高い

全文検索が可能

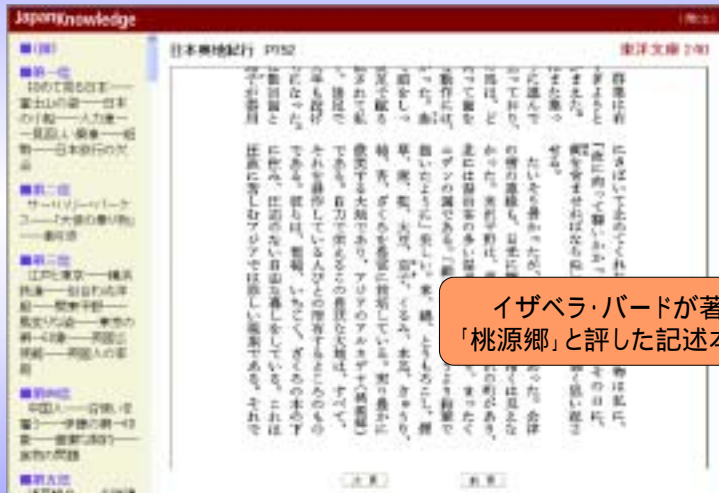
引用参照が簡便

学習の基本的資料としての活用指導が有効

20

「日本大百科全書」(JapanKnowledge)から

4.2 古典の復活

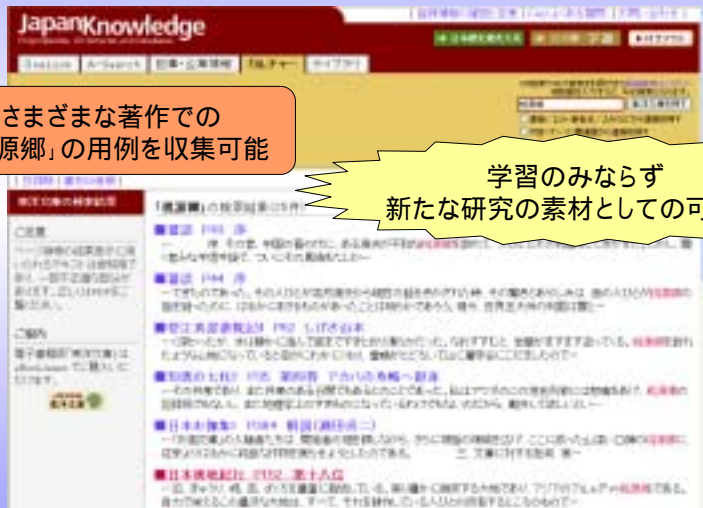


イザベラ・バードが著作中で
「桃源郷」と評した記述本文を検索

「東洋文庫」(JapanKnowledge) から

21

4.2 古典の復活



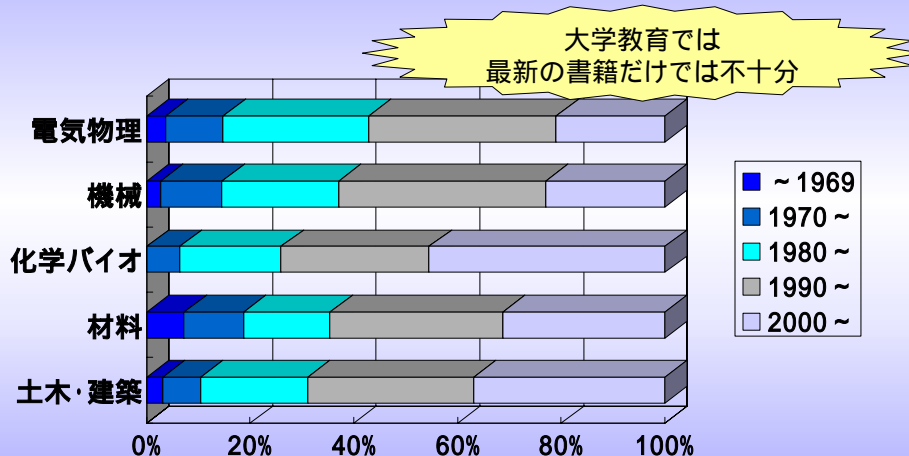
さまざまな著作での
「桃花源」の用例を収集可能

学習のみならず
新たな研究の素材としての可能性

「東洋文庫」(JapanKnowledge) から

22

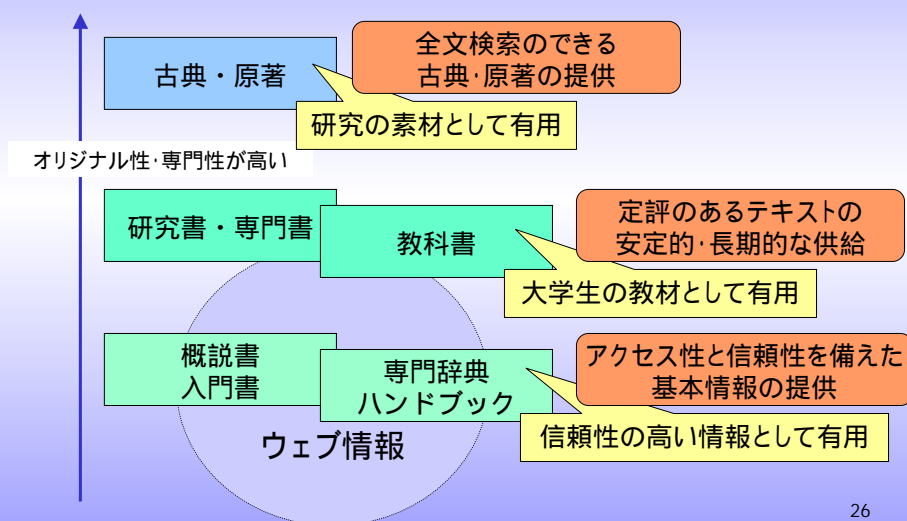
4.3 学習用図書の再認識（工学系）



東北大学工学部シラバス掲載の教科書・参考書の分析集計

25

5.1 eBookに期待する機能



26

5.2 eBookに期待する効果

利用頻度	検索エンジン	図書館	オンライン図書館
毎日	52.5%	6.1%	7.0%
週2～3回	34.4%	12.3%	9.0%
週1回	5.1%	30.8%	10.0%
月2～3回	4.0%	5.1%	10.0%
月1回	1.0%	10.2%	4.0%
年数回	1.0%	12.3%	8.0%
ほとんどなし	2.1%	5.1%	55.0%

この割合を高めるための
最も有望な資料群

筆者担当科目(eラーニング方式)でのアンケート調査による

27

6 文献

- ・大学図書館は大学教育に貢献できるか, 平成18年度中国四国地区大学図書館研究集会基調報告予稿, 2006年
- ・検索エンジンを正しく利用するための8原則, 曙光: 東北大学全学教育広報, 22, 2006年, pp.15-17
- ・検索エンジン主流時代だからこそ必要な図書館利用者教育, 東北大学附属図書館報: 木這子, 30(4), 2006年, pp.22-25
- ・ウェブ主流時代における情報リテラシー教育再構築の試み, 薬学図書館, 51(3), 2006年, pp.193-197

下記サイトから入手可能なものもあり

<http://book.geocities.jp/bpxdx655/index.html>